

塩谷郡市医師会だより

Vol. 68

社団法人 塩谷郡市医師会
広報委員会

〒329-1312

さくら市桜野1319番地3

さくら市氏家保健センター内

TEL 028(682)3518

FAX 028(682)5760

Contents

- 1 役員会報告
- 2 学術講演会報告
- 3 各医師団からの報告
- 4 シリーズ「塩谷医療史」9

平成23年度第1回役員会報告

平成23年5月23日(月)午後7時からさくら市氏家保健センター医師会事務室で開催された。

出席者：山田会長・尾形副会長・岡副会長・池田・後藤・軽部・佐野・大草・半田・越井・高橋・手塚(委員会)植木・森島・仲嶋・桑川事務長



◆ 議題 平成23年度会長方針

山田会長から今年度の方針として 塩谷地区おとな・子ども診療室の充実と公平な負担 塩谷郡市医師会の財務会計の改善の2点が挙げられた。塩谷地区おとな・子ども夜間診療室の受診者数について、土曜日の利用者が少ない点や大人の患者数が少ないことが報告された。医師会の財務状況について池田会計担当理事から説明があり、山田会長から次回の役員会に具体的な提案を行うことが示された。

◆ 議題 平成23年度医師会スケジュール

今年度の役員会のスケジュール、市民公開講座の日程などが示され、了解された。

◆ 議題 各種委員会方針

保健委員会 特になし

研修委員会学術部会(植木委員長)

年間の実施予定日と既に決まっている講演会について報告された。

研修委員会産業医部会(森島委員長)

6月9日、7月14日に行う。栃木産業保健推進センターが来年廃止されることが予想されることとその影響について報告された。

介護保険委員会(仲嶋委員長)

昨年同様、今年度も主治医研修会を予定。

感染症対策委員会(軽部委員長)

ヒブ、小児肺炎球菌ワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン、子宮頸がんワクチンの法定外予防接種が公費負担となったので事故の無い様お願いしたい。

裁定委員会

理事役員は裁定委員になれない規定になっているため、山田会長・大和田理事が戸村先生、森島先生に変更する予定。

医師会史委員会(岡委員長)

2年間郷土史家や氏家町史委員会のメンバーと共同で収集研究してきた資料をもとに2年後を目途に医師会史を完成したい。

広報委員会(岡委員長)

養生のススメが来年で丸5年となるので見

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	岡 一雄 r2d2@msh.biglobe.ne.jp 尾形新一郎 ogata@o-ga-ta.or.jp	桑川 kumekawa.shioya@gmail.com 高橋 takahashi@e-shioya.jp

直しを行いたい。健康かわら版については発行部数や配布方法について検討したい。役員からは養生のススメの継続を希望する意見が出された。

選挙管理委員会（植木委員長） 特になし
会館建設検討委員会 会館建設準備金積立がある間は委員会を継続することになった。

医療機能分化推進委員会（池田委員長）
県からの補助事業で推進してきたが今年度は補助がないので活動休止としたい。

社会活動委員会（森島委員長）

9月25日（日）高根沢医師団が当番で市民公開講座を予定。テーマは認知症の介護で劇団いくりの劇と講演を行う。来年度の担当は塩谷町医師団なので10月頃を目途にテーマなどを検討してもらいたい。

平成23年度第2回役員会報告

平成23年7月25日（月）午後7時からさくら市氏家保健センター医師会事務室で開催された。

出席者：山田会長・尾形副会長・岡副会長・池田後藤・軽部・佐野・大草・半田・谷口・越井・高橋・手塚・小島監事・江口監事・糸川事務長

◆議題 新公益法人申請手続きについて

池田理事、糸川事務長から新公益法人申請のスケジュールと進捗状況が説明された。順調にいけば8月に審議答申され、3月末に認可される予定。県内医師会では最も早く事前審査が済んでおり、また申請にあたって業者委託もしていない。

◆議題 財政再建計画の検討

糸川事務長から、新公益法人移行に伴い、公益目的支出計画に基づいて、会館設立準備金を含めた公益目的財産残高を零にする必要があり、そのためには現在の収入と支出を見直す財政再建計画が提示された。具体的には会員会費の値上げと現在の支出（事業計画）の見直しが必要となる。役員会定員の削減、会議回数減少、広報活動の見直し、事業計画の見直しが検討された。また、支出の中で大きな割合を示している保険審査員

報酬についても議論された。審査員報酬は他の医師会では報奨金を出しているところが少ない上、本会の報奨金が高額であることから金額を減額する方向で検討することとなった。

また、会員会費については、値上げする方向で役員の同意が得られた。

◆議題 市民公開講座について

担当の高橋理事から、9月25日（日）高根沢町民ホールで行われる市民公開講座について説明があった。今回は「認知症ケア」をテーマに講演と「劇団いくり」の認知症の劇が行われる。

◆議題 医師会広報について

岡副会長から、広報について会員に行ったアンケートをもとに広報委員会で来年から養生のススメを少し内容を変える予定であること、財政再建計画の一環として健康かわら版の発行回数および枚数を減らすことの説明があった。

◆議題 塩谷地区おとな・こども夜間診療室

4月から6月までの夜間診療室受診者数が示された。土曜日の診療室受診者数がまだ少ないが概ね順調なスタートであることとの意見が多数を占めた。

学術講演会報告

「放射線・放射能～ヒトへの影響～」

日時：平成23年5月11日（水）

講師：自治医科大学放射線医学講座教授

仲澤 聖則先生

3月11日の震災による福島原発事故で放射能汚染が広がり、その影響が懸念されている折、急遽行われたタイムリーな講演会で、行政関係者も含め52名もの参加者があり関心の高さが示された。仲澤先生は放射線医の立場から今回の事故での放射線の影響について分かりやすく説明してくれた。

学術講演会報告

「神経障害性疼痛を考える」

日時：平成23年5月17日（火）

講師：獨協医科大学麻酔科学講座准教授

山口 重樹先生

神経障害性疼痛は簡単には抑えることができないが、今回新たな作用機序の薬の発売で選択肢が増えた。ペインクリニックも行っている麻酔科の山口先生が使用法なども含めて解説してくれた。

学術講演会報告

「ワクチンの最新の話」

日時：平成 23 年 7 月 26 日（火）

講師：国際医療福祉大学塩谷病院中央検査部長
同大学教授 倉田 毅先生

天然痘の撲滅に関わり、富山県衛生研究所、国立感染症研究所の所長を歴任した倉田先生の講演は人類と感染症との関わりから新しい感染症の出現、そしてワクチンの話と広範で示唆に富む内容であった。

脳卒中・急性心筋梗塞対策専門研修会

「今、あなたの血管が危ない」

日時：平成 23 年 7 月 19 日（火）

講師：獨協医科大学心臓血管内科教授
井上 晃男先生

栃木県は脳卒中の発症率が相変わらず高い。その脳卒中と同様に動脈硬化や高血圧、糖尿病などの生活習慣病が原因となり発症する心筋梗塞について井上先生が解説してくれた。

～ 各医師団からの報告 ～

* 塩谷町医師会 *

第 3 回グランドゴルフ大会開催

6 月 5 日塩谷町歯科医師会と共催の第 3 回グランドゴルフ大会が開催された。町の社会福祉協議会の協力を得て、42 チーム 183 名の老々男女がその技を競う。22 ホールパー66 のコースはセントアンドリュースに似て各ホール入り乱れ、スタートマットから望むホールポストの旗は、1 メートルに達するかという丘の向こうや、あるいは樹齢十数年の樹木にさえぎられ、さらにベンチの脚の間から垣間見えるという具合。6 センチの球をドライバー兼パターで転がし、3 打でホールならぬリングに入れることを目的とするしごくシンプルな競技である。個人成績の

勝者は 45 打の女子で、年齢 76。1 打差の準優勝は上位 7 名のうちたった一人の男子で 87 歳。優勝チームは平均年齢 73 歳のある地区のチームで平均打数 53.67 であった。ちなみにパープレーの 66 打で回ったのは 93 歳の男子で、今回の最年長選手である。

余談ではあるが、当地区の医科と歯科とは毎年忘年会を行っている。その費用をめぐって毎年喧々囂々となるのだが、今年はグランドゴルフで決着することになり、歯科組は医科組を全く問題としておらず、朝まで酒精に浸るありさま。一方医科組は、翌日から休暇をとり温泉に行く準備も投げ出して真剣に取り組んだ某医の活躍もあり、今年の忘年会は歯科医師会の奢りとなった。驕る歯科は久しからず。

* さくら市医師団 *

さくら市医療懇談会

7 月 8 日さくら市行政と医師団、歯科医師団の代表によるさくら市医療懇談会が開催された。会議では受動喫煙防止の取り組み、種類の増えた予防接種の啓蒙のためのパンフレット作成、ABC 検診など、さまざまな項目で意見の交換が行われた。

納涼会 in さくら

恒例の納涼会が 7 月 29 日（金）さくら市のよし茶屋で行われ、18 名の会員が参加した。



塩谷郡市医師会第 8 代会長（平成 9～13 年）の黒須節三先生が平成 23 年 8 月 2 日にご逝去されました。享年 87 才でした。黒須節三会長時代に年 2 回の会員親睦会（新年会、納涼会）が始められ、医師会だよりも創刊されました。謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

追悼 檜山猛郎先生

さくら市医師団はまとまっているねとよく言われる。その話に及ぶと「僕が開業した頃の氏家医師団は皆仲が悪くて大変だったんだ。それをお酒を飲んだり、旅行をしたりしてようやく仲良くなった」というのが檜山先生の口癖だった。檜山先生が開業されたのは昭和29年8月。当時の氏家医師団のメンバーは戦後の新生塩谷郡医師会の歴代会長となる、小林義雄、森島軍、黒須光雄、加藤好夫先生など錚々たるメンバーが揃っていた。そんな中、最も若い医師のひとりとして医師団の融和に努めたのである。そして今日までさくら市(氏家)医師団が仲良くやってこられたのはもちろん先生のおかげである。その檜山猛郎先生が1月10日急逝された。享年88歳であった。その功績を一言では語ることは困難だが、生前の語録から振り返ってみたい。

「もう五十年以上も開業医をやっている」

気の遠くなる数字である。ただ単に五十年開業しているだけでなく、常に新しい知識を求め、勉強続ける開業医の鏡であった。医師会の学術講演会も、檜山先生たちが、他の医師会に先駆けて始めた心電図の勉強会が発端となっている。また先生は80歳を過ぎてからインターネットを始め、ネットを駆使して知識の収集に努めていた。その向学心たるや恐るべしである。

「島岡達三氏は雀友で時々徹マンしてるんだ」

島岡達三氏とは平成17年に亡くなられた人間国宝の陶芸家。作陶の合間に弟子たちと一緒に檜山邸で徹夜麻雀をしていた。時には自分の陶芸作品を麻雀の賞品に出していたという。檜山先生が自身の麻雀の腕に言及したことはなかった。

「川上澄生先生は僕の実家庭教師だった」

川上澄生先生は版画家だが、檜山先生が宇中(現宇都宮高校)の学生だった頃、宇中で英語教師をしていた。檜山先生の父上が同じ宇中の

同僚教師だった関係もあり、檜山邸に下宿していたことがある。檜山先生の美術品収集のルーツはこの辺にあるのかもしれない。鹿沼市には川上澄生美術館があるのでぜひご覧あれ。

「その器にあらずと考へ、会長を辞めたんだ」

塩谷郡市医師会第四代会長の加藤好夫先生が昭和55年6月急逝し、副会長だった檜山先生が会長を代行し、9月に第五代会長に就任した。翌年3月までの短命会長であったが、在任中は救急当番問題に目鼻を付ける。後任は黒須篤平先生である。「篤平先生に頼みこんで次の会長になってもらった」が上の言葉に続く。

「長嶋(元重)先生に僕の弔辞を頼んでいたのに先に逝かれちゃった」

長嶋元重先生は檜山先生と同じ昭和29年12月に氏家町押上に開業。檜山先生にとっては生涯の盟友であった。黒須光雄先生、長嶋元重先生と三人で氏家の文化、医療を牽引し、ふたりが亡き後はその灯を守り続けた。氏家歴史文化研究会の顧問をされており、総会後の懇親会や忘年会では、毎回様々な蘊蓄話を聞かせてもらった。氏家の文化は医師が支えているといわれた所以である。

今回の塩谷医療史は1月に急逝された檜山猛郎先生について書かせていただきました。私が医療史に取り組むことになったのは先生に誘われたのがきっかけでした。先生のご冥福をお祈りします。(担当:岡 一雄)



氏家医師団の面々、後列左から二人目が若き日の檜山先生